

事例紹介1：地域の歴史を学び、未来へとつなげる学び



2020年1月26日(日)SDGs・ESDでユースと創る未来
1:地域の歴史を学び、未来へとつなげる学び

「阿賀野川流域地域の光と影を通じたESD-SDGs」教材化プロジェクト



一般社団法人 あがのがわ環境学舎 事務局長・山崎陽

1. 阿賀野川流域マップ～新潟水俣病が発生した地域



2. 阿賀野川流域における公害発生から地域再生まで

発生以前	原因企業の工場が建設	昭和4(1929)年～	今から90年以上前
	有機化学が隆盛	昭和30年代(1955～65)年～	今から60年以上前
公害の発生	新潟水俣病の表面化！	昭和40(1965)年	今から50年以上前
	流域の環境汚染、健康被害、地域の絆の断絶、地域の疲弊...	それから50年以上が経過...	
地域再生	阿賀野川えとこたプロジェクト	平成19(2007)年～	今から10年以上前
	阿賀野川エコミュージアム & あがのがわ環境学舎 & アー&ネットショップ阿賀の宝	平成23(2011)年～	今から10年ほど前 設立!

3. 一般社団法人あがのがわ環境学舎の紹介

新潟県 一般社団法人 あがのがわ環境学舎

公害の地域再生

- ✓ 活動の舞台は「阿賀野川流域」(※新潟市・五泉市・阿賀野市・阿賀町の4市町)
- ✓ もととは、県が推進する新潟水俣病の地域再生業務を担うため、誕生した団体。
- ✓ 設立:平成23年2月 事務所:阿賀野市

重視するコンセプト 光と影
どちらか一方に偏らず、光と影の両面を踏まえた取組とすることで、流域住民の方々から受け入れられた。

阿賀野市保田3866番地1
TEL&FAX 0250-68-5424
<http://www.aganogawa.info/>

4. 阿賀町における課題が本プロジェクトの出発点



● 豊富な水量
阿賀町は95%以上が山地で、無数の河川の水がすべて阿賀野川に流れ注がれている。



● 近代産業が栄える
足尾銅山を経営していた古河財閥も、新潟水俣病を引き起こした昭和電工も阿賀町が創業の地だった。



そもそも阿賀町ではこれまで、新潟水俣病学習がほとんど取り組まれてこなかった。

この課題解決に向けたプロジェクトをスタート！



5. 新潟水俣病学習を促す阿賀町向け教材づくりはじまる！

「阿賀町近代化遺産の光と影を通じたESD-SDGs」 小・中学校向け教材化プロジェクト

平成30年度文部科学省
ユネスコ活動賞補助金

目的

阿賀町の小・中学生が日本の近代化に貢献した阿賀町の近代産業の変遷を学びつつ、自らが生まれ育つ郷土への誇りや愛着を失うことなく、近代化の過程で発生した環境問題からも教訓を学び取る力を涵養するため、ESD・SDGsに基づいた阿賀町の近代化遺産の光と影をテーマとする小・中学生向け教材を制作するもの。

阿賀町の近代産業



小・中学校用教材制作

阿賀町教材化コンソーシアム



ESD-SDGsに基づき...

既存教材の活用調査研究/モデル(検証)授業等の実施/ホームページ等で情報発信/高校生による翻訳版も作成



● 検証(モデル)授業を実施

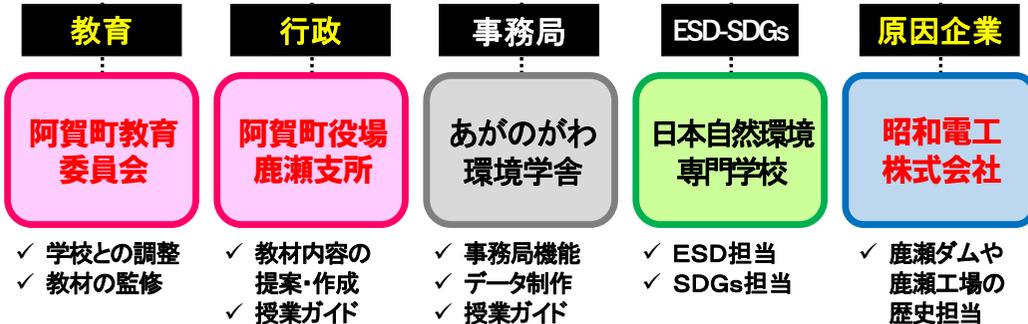
- 阿賀町内の希望する小・中学校で実施
- 近代産業を題材に、授業&現地見学



2018年度に完成!

6. 阿賀町向け教材づくりを協働するコンソーシアム体制

「阿賀町近代化遺産の光と影を通じたESD-SDGs」 小・中学校向け教材化コンソーシアム



7. なぜ阿賀町では公害教育がさけられてきたのか？

- 昭和電工(株)鹿瀬工場が地元で繁栄をもたらしてきた。
- 子どもの親世代や祖父母世代の反発を招くかもしれない(などと、教育する側が地元感情を忖度してしまった)。
- 地元の影の部分を知ってショックを受けることで、子どもたちの「郷土への誇りや愛着」が損なわれるかもしれない(過疎化・少子高齢化が著しく、若年世代の流失が深刻な阿賀町では、無視できない背景)。

公害のマイナスの側面(被害者側の事情のみ、企業や行政を責め立てる)のみを教える、これまでの公害教育のスタイルでは限界がある。

8. 公害学習にうってつけの阿賀町の題材はないのか？

子どもたちが阿賀町への誇りや愛着を失うことなく、
公害の教訓も学び取れる題材はないのか？

阿賀町は有名な近代産業が栄えた土地

新潟水俣病学習ではなく、近代産業の歴史学習を題材にしよう！



日本の近代化や地域に貢献しつつ、今も大企業として存続
現在でも、古河グループ (古河製鉄(株)、古河電気工業(株)、富士通など...) と昭和電工グループなどの年間総売上額を足すと10兆円を超える。

地元・阿賀町

草倉でも景観や植樹が現れ、定着ではその効果が大きくなった。一方、鹿瀬工場では阿賀町に有害水俣病が流出して、新潟水俣病が発生した。

足尾銅山血毒事件など鉱害や新潟水俣病など公害が発生

(資料出典：「阿賀町歴史博物館」(阿賀町歴史博物館)、(阿賀町歴史博物館))

9. 「阿賀町の近代産業の光と影」をデジタル紙芝居に！



- 阿賀野川 草倉銅山 足尾銅山 鹿瀬工場 水俣病 現在
- 表紙
 - 阿賀野川の登場
 - 阿賀野川の舟運
 - 草倉銅山のはじまり
 - 豊富な産銅量
 - 角神の製錬所
 - 川港から出荷
 - 繁栄する地元
 - 足尾の事件
 - 鉱害の克服
 - 鉄道と閉山
 - 鹿瀬ダムの建設
 - 鹿瀬工場の誕生
 - 肥料の製造
 - 発展する工場
 - 文化的な暮らし
 - 有機化学への転換
 - 新潟水俣病の発生
 - 再び清流を
 - 今の阿賀町
 - 阿賀町の未来
 - おしまい

● 阿賀町近代産業の歴史は複雑で、教員が全体像を把握して、授業に活用するのは大変難易度が高い。
● 教員の負担がなるべく少なく、簡単かつ効果的に授業に活用できる形式の教材が良い。



10. 検証授業を展開して、紙芝居の副読本も作成・配布



◆検証(モデル)授業

7小学校&1中学校が参加

学校名	生徒数	授業時間
津川小	16名	5時間
三郷小	5名	3時間
鹿瀬小	10名	3時間
日出谷小	5名	3時間
三川小	18名	3時間
西川小	10名	10時間
上条小	5名	5時間
阿賀津川中	43名	6時間
計	112名	38時間

すべての学校で
2019年度も継続



紙芝居の各パートを
解題した副読本も作成
して、広く配布

11. 阿賀町の小・中・高校では、公害学習が今後も継続



2019年度

新潟市教育委員会と協働して、阿賀全域で使用できる新潟水俣病学習用教材を制作中!



事例紹介2：足元の地学から防災へ、多世代で学んで実践へ



足元の地学から防災へ、多世代で学んで実践へ

ほどがや市民活動センターアワーズ
報告：北川有紀

ほどがや市民活動センターアワーズ



アワーズは、地域の大人も子どもも、みんなの**“地域で何かやってみたい！”** 想いを一緒に形にしていく場所。

定年後に何かを始めようとする人、子育てママのサークルを立ち上げた人、自分の企画を実現しようとする若者、そんな地域の活動家が日々集まります。

かつては「生涯学習支援センター」現在は「市民活動支援センター」にあたる施設です。

事例のポイント

- ① 地域の人を良く知ること
(**関係性の貯金**をつくっておく)
- ② 世代に合わせた**ストーリー**づくり
- ③ 「世代と世代」を**クロス**させる場づくり



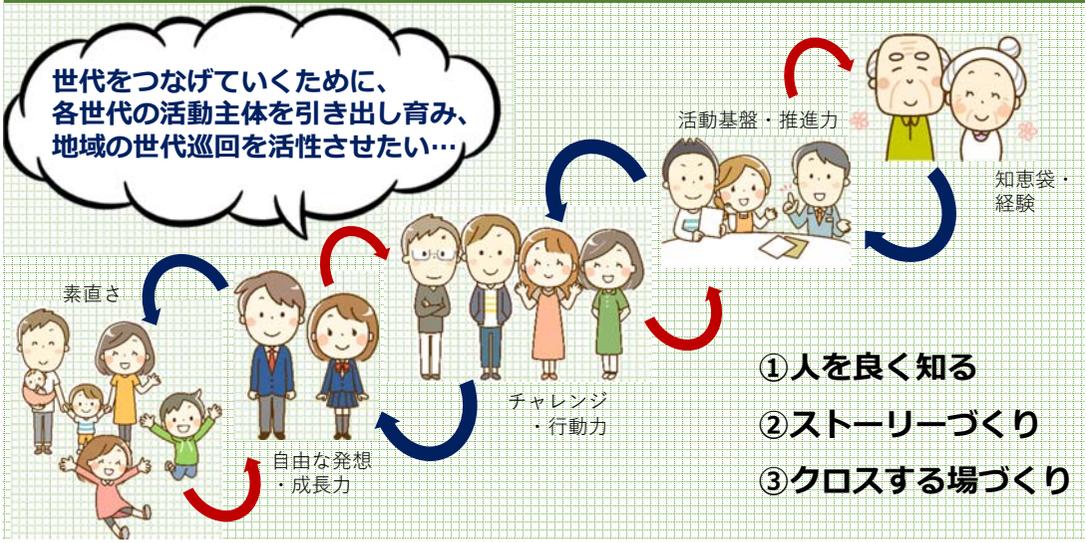
改めて「保土ケ谷」について



- ・ 横浜市の「へそ」
- ・ 山坂&高齢者
- ・ 相鉄線JR直通
- ・ 横浜国立大学
- ・ **地域の次世代育成**

出典) 保土ケ谷区HP, 相鉄線HP

地域の次世代を育てるには…



① 人を良く知る

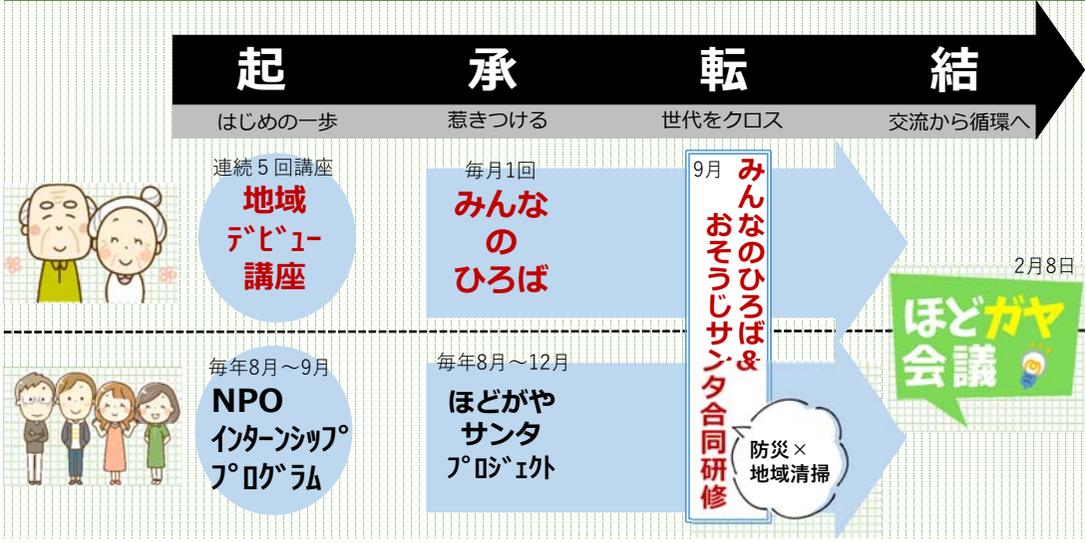
高齢者の気持ち

- ・ 質の高い学習をしたい(向学心)
- ・ 実は誰かの役に立つことがしたい
- ・ 周りに意見したいことだってある
- ・ でも提案したり、リーダーになるのは苦手
- ・ ワークショップに参加するのは苦手
- ・ 地元や住んでる地域のことを知りたい

学生の気持ち

- ・ 自分で企画して実践もしたい
- ・ 地元や住んでる地域のことを知りたい
- ・ けど、地域と接する機会が少ない
- ・ 実は誰かに必要とされたい
- ・ でも人前に立つ自信がない
- ・ 密かな推しがいる

② ストーリーづくり



② ストーリーづくりの「起」

地域デビュー講座

「定年後の高齢男性」を主な対象に、“ちょっと理系”な知識学習を通じて、地域の魅力や課題へ目を向け、その先の行動につながることを目標に、毎週連続5回の講座を編成。

講師：鷺山龍太郎氏
(防災士・横浜市立小学校長を歴任)

【ポイント】

- ・ 学術的に学べる質
- ・ 学校の授業風(懐かしいワクワク)
- ・ まち歩きや実験を交えて、飽きさせないコンテンツを盛り込む
- ・ 気付いたら参加者が仲間みたい
- ・ 講座の「次」を用意しておく

東海道が保土ヶ谷を通る地球科学的な理由

南の海から来た伊豆 箱根 南の海から来た丹沢

ユーラシアプレート

保土ヶ谷

② ストーリーづくりの「承」



デビュー講座修了生や、地域の環境に関心のある幅広い層を対象に実施。環境を切り口に、多様な価値観への気付きを促すディスカッション(おしゃべりタイム)を多く取り入れ、受け身になりがちな講座から、アウトプットに慣れていくことを目指した。

講師：主に地域の関係者
(教授、専門家、役所、企業、活動団体)

【ポイント】

- ・「正解」を与えない
- ・徐々に次世代との接点を増やす
- ・「私にできる事」を問う
- ・講座の「次」を用意しておく

日程	テーマ・講師&ゲスト
1月18日(金)	総論 講師：佐土原聡 教授(横浜国立大学)
2月8日(金)	生物多様性 講師：森章 准教授(横浜国立大学)
3月29日(金)	地球温暖化 講師：本藤祐樹 教授(横浜国立大学)
4月19日(金)	SDGsとは 講師：伊藤博隆氏((一社)環境パートナーシップ会議)
5月17日(金)	横浜市のSDGs 講師：横浜市温暖化対策統括本部SDGs未来都市推進課
6月21日(金)	保土ヶ谷区の取組み 講師：保土ヶ谷区地域振興課、子ども家庭支援課、高齢・障害支援課
7月26日(金)	地産地消 ゲスト：ほどがや産直便 講師：伊藤博隆氏((一社)環境パートナーシップ会議)
8月23日(金)	地域防災 講師：髙山 龍太郎氏(防災士、元横浜市長)
9月21日(土)	地域防災&清掃 企画：ほどがやサンプラザプロジェクト学生チーム 講師：髙山 龍太郎氏(防災士、元横浜市長) 保土ヶ谷区資源化推進担当
10月11日(金)~11月21日(金)まで	地域清掃 ゲスト：ほどがやサンプラザプロジェクト学生チーム 栗山町政策課、保土ヶ谷区資源化推進担当
11月15日(金)	生物多様性 ゲスト：ワーリットの森を守る市民の会、石井造園株式会社
12月20日(金)	エネルギー ゲスト：古河電池株式会社、PV-netほどがや
1月17日(金)	まちづくり ゲスト：相鉄ホールディングス株式会社
2月21日(金)	イベント報告 ゲスト：ほどがやサンプラザプロジェクト2019運営委員会
3月13日(金)	地域の多世代交流 ゲスト：守田 洋氏(公財)よこはまユース

② ストーリーづくりの「転」

8月

NPO インターンシップ プログラム START



合同研修の企画
打合せの日々...

9月

髙山先生と下見



8月
みんなの
ひろば
「防災」



合同研修

小学生や中学生も参加
イベント運営



参加者



② ストーリーづくりの「結」

ほどがや会議
参加無料
2020年2月8日(土)
13:30~16:30(開場13:00)
会場：かながわアートホール

ゲスト：
高田健治氏(NPO法人日本NPOセンター事務局長)
サポーター：
髙山龍太郎氏(防災士、元横浜小学校校長)
竹迫和代氏(参加はくくみ工務代表)

「ほどがや会議」とは？
「誰かがやるべきこと、みんながやるべきこと、みんなでやるべきこと」をテーマに、地域の人たちと話し合い、課題を共有し、解決策を模索する場です。参加費は無料です。お気軽にご参加ください。

主催：ほどがや市民活動センター(アワーズ)、保土ヶ谷区
http://hodogaya-ours.jp

目指すは保土ヶ谷オールスター未来会議！

みんなのひろばの仲間、ほどがやサンプラザの学生や生徒、他にも地域でチャレンジしたい人や、応援したい人、大学教授も、公共施設や区役所の職員まで…！

いつもよりさらにいっぱい地域の人たちと出会い、交流しながら、保土ヶ谷をもっと面白くするアイデアをみんなで一緒にワイワイガヤガヤ考える会議。

ここから生まれたアイデアの一部を、次年度になったら実際に実行することを会議の前提に、これまで講座で色んな議論を重ねて意欲関心の高くなった方が、次の一步を踏み出すことを目指します。

③ 「世代と世代」がクロスする場づくりとは

“お互いに話し合う時間を、どう取り戻すか”
“今までやってきたからこそ出会う意味がある”



事例紹介3：地域・分野を越えて社会的ケア

『真の文明』の精神とESD・SDGs



地域ESD活動推進拠点
NPO法人エコロジーオンライン
理事長 上岡 裕

【上岡裕プロフィール】

1960年4月7日、栃木県佐野市に生まれる。栃木県立佐野高校を卒業後、国際基督教大学を経て、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント入社。1991年にフリーライターに転身。2000年3月、環境情報発信を手がけるNPO法人エコロジーオンラインを設立。インターネット事業を核に環境省、林野庁、ソニー株式会社、東京都など、数多くの協働事業を手がける。その後、東日本大震災や熊本地震に際した被災地支援を展開し、マダガスカルでの里山エネルギー学校設立など、途上国支援につながった。

エピックソニー時代にはエレファントカシマシを担当。自ら企画監修したCD「MUSIC GO! GREEN 風の国から」を2016年にリリース。坂本龍一さんのラジオ番組J-WAVE『RADIO SAKAMOTO』のエコレポートを担当している。

エコロジーオンラインは一昨年、地球温暖化分野での活動を評価され、環境大臣賞を受賞。SDGsについてはダルク女性ハウスを手がける姉上岡陽江とともに普及啓発の活動を実践。佐野市に受け皿となる地域SDGs推進ネットワークを創立した。

また、父母の認知症介護体験から、音楽による高齢者ケアをよびかけ、「パーソナルソング」の全国上映会を実施。「コンテンツフォーケア」を立ち上げて活動している。



東京新聞(2011年11月9日)

田中 正造(たなか しょうぞう)

天保12年11月3日(1841年12月15日) - 1913年(大正2年)9月4日)は、日本の政治家。日本初の公害事件と言われる足尾銅山鉱毒事件を告発した政治家として有名。衆議院議員選挙に当選6回。幼名、兼三郎。下野国小中村(現・栃木県佐野市小中町)出身。(ウィキペディアより)



田中正造は私が最も敬愛する人
小出裕草さん



「自然エネルギーに関する総理・有識者オープン懇談会」において、坂本龍一さんが田中正造の言葉を紹介。

日本を見よ。一ツも天然を発起せしものなく却て天然を破る事に汲々して、その間僅ニ物質の力をかりて小利を得るもの多シ。天然の大なるをしらず。有限物質の仮力をかりて辛らき小利ニ汲々たり。その小利また私利、自然公共の大益をしらざるなり。

持続可能な開発
将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現世代のニーズを充足する開発



一九一三年七月二十一日 日記

物質上、人工人為の進歩のみを以てせば社会ハ暗黒なり。デンキ開ケテ世間暗夜となれり



真の文明は山を荒さず川を荒さず村を破らず人を殺さざるべし

誰一人取り残さない



一九一二年六月十七日 日記

然れども物質の進歩を怖る、勿れ。この進歩より更ニ数歩す、めたる天然及無形の精神的の発達をす、めバ、所謂文質彬彬知徳兼備なり。

経済成長

環境保護

社会的包摂



SDGs

事例紹介 4 : 学校の内外で進める様々な学びの形



晃華学園におけるSDGsの取り組み

■ 学校の紹介

- ・ 東京都調布市にある中高一貫の女子高
- ・ キリスト教のカトリック、とくにマリアニストスクールとして世界共通の理念に基づいた教育を行っている



晃華学園におけるSDGsの取り組み

■ 具体例

- ・ 小学生向け授業(with玩具会社)
- ・ Dance×SDGs(with舞踊団)
- ・ ファッション×SDGs(withファッションブランド)
- ・ ハンディポッド(with国際NGO)
- ・ 高校生向け母子手帳(with市役所)

→生徒の要望を受けて実施する

晃華学園におけるSDGsの取り組み

■ 基本的な考え方

…**生徒発信**の学習・活動プログラムをデザインする

(理由) ①主体性のある学びを行うことができる

(成功も失敗も、生徒のものにする)

②生徒の社会化のタイミングは、それぞれである

→本校のSDGsに関する活動は、生徒が企画書を持ってきて始まる

課外活動という形式を採っている

年間20前後のプロジェクトが動く

晃華学園におけるSDGsの取り組み

- 活動を充実させるために

…待っているだけでは生徒は動かないので、刺激策も重要

①授業での展開

…中学3年生の社会「国際」では、一年かけてSDGsなどの国際問題を取り上げ、映像の作成など、受信だけでなく発信も行う

Ex. 国際映像コンテスト

②学年での展開

…カトリック校・ユネスコスクールとして国際人権団体の講演会など、日頃の特別活動から意識付けを行っている

Ex. マラウイの小学校との共同宣言

晃華学園におけるSDGsの取り組み

- この活動を4年間続けて…

①学校(特に管理職)の協力が重要

→学校の理念から、どう結びつけるかが重要

②生徒を信頼する

→失敗するリスクがゼロになることはない

③長期間にわたって持続していくべき

→生徒にとって「当たり前」にしていくことが好循環を生む

SDGs文化祭

- こうした活動を学内で続けているうちに、

「活動をできる環境(学校・仲間)は限られているのではないか」

「SDGs学べる、発表できる機会が少ないのではないか」

といった疑問がわいてくる

→無いなら、作ってしまえば良い

⇒SDGs文化祭の開催

SDGs文化祭

- 概要

…SDGsに興味がある生徒を集め、**学ぶ場、仲間を作る場、発表する場**を提供し、より深い学びを促進する

※甲子園のような大会では、賞をもらえないと無価値に見える

→取り組んだことを評価する「文化祭」という形式を採用

SDGs文化祭

- 実施

…約20名の生徒が参加し、半年間かけてプログラムを展開

→11月に聖心女子大学で文化祭を開催(100名弱来場)

- ・意欲がある中高生は、場所を与えれば力を発揮できる

⇒大人の役割：**場の提供**

この2つの取り組みを踏まえて

- まとめ

大人の役割：**場を提供すること**(教えない勇氣)

生徒の役割：**学びにくること**(受け身ではない姿勢)